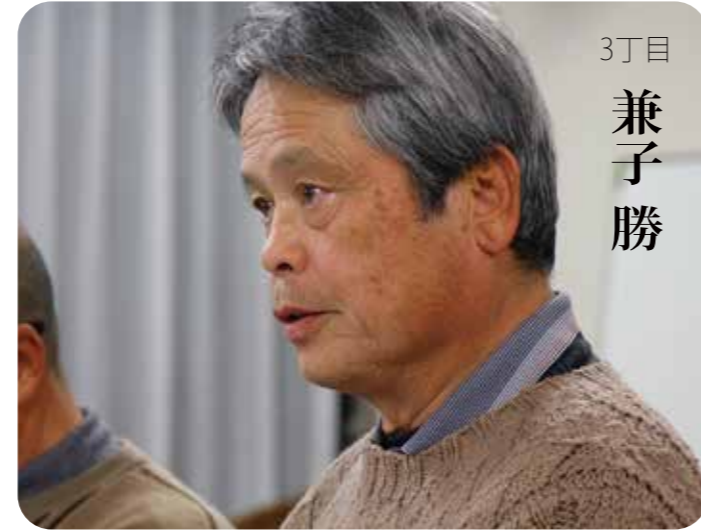


プロの演奏家と市民で
創り上げる創作オペラ～
「雨情とひろとお月さま」



3丁目
兼子勝

さくら市制10周年を記念して、市に縁の深い野口雨情とその妻で喜連川出身のひろを主人公にした創作オペラを、プロの演奏家と有志の市民合唱団の協働で上演します。日本三大童謡詩人である雨情と妻ひろの出会いと別れ、その後の人生を描いた二人の不思議な運命が雨情の名曲と共にオペラになりました。

「雨情とひろとお月さま」が市民有志とプロの演奏家によって、一日限定で上演される。兼子勝さんはそのオペラに出演する。出演者は広く市民から一般公募された。兼子さんの参加きっかけのひとつに、高校時代に所属していた合唱部の経験があった。男子校だったこともあり、男声合唱に青春をささげた。その後社会人になり、本格的な合唱から遠ざかることおよそ50年。オペラの練習を重ねる内にあるふしぎな体験をする。「歌っていたら突然学生時代に練習を供にしたみんなの姿がばあつとよみがえってきた。それも当時のまんまの姿で(練習時の)並んだ順に顔が浮かび上がってきたんだよ。」振り返れば日々の暮らしで、合唱部の旧友を思い出すことはなかったと言う。オペラへの参加

がきっかけで、当時を思い出した。オペラはそもそも歌と演劇が合わさったもの。「日常にないシチュエーションで思い切り感情を出していい。」と兼子さんが語るように、感情が噴きだすように、自身の青春時代の記憶もよみがえったのだろうか。「オペラで一緒のメンバーも、始めはただ歌っていただけだったのに、指揮者の先生に『本当に嬉しいんだって』という感情をもっと出して！前に飛ばして！』と言われても一度やり直すと表情が変わる。イキイキして、人によつては目を見開いたり、身振り手振りまでつけている。アマチュアでも先生の手にかかると思えるほど感情が豊かになる。これがプロの力か！と実感した。」一流の文化・芸術に触れるには多くの場合、都会に向かなくてはならない。それがさくら市で行われ、そうそうたるメンバーが市民と同じ空間で同じ演出・指導・

さくら市 10th Anniversary!!

2005年3月に氏家町と喜連川町が合併して誕生したさくら市は、今年の3月28日に節目の10周年を迎えます。そこで、今回は市制10周年を記念して行われるイベントをご紹介します。

オペラ「雨情とひろとお月さま」

さくら市の誕生と共に始まり、来年で10回目の節目を迎える雨情音楽祭の開催と、さくら市市制10周年を記念して、市に縁が深い野口雨情とその妻で喜連川出身のひろを主人公にした創作オペラを、プロの演奏家と有志の市民合唱団の協働で上演します。日本三大童謡詩人である雨情と妻ひろの出会いと別れ、その後の人生を描いた二人の不思議な運命が雨情の名曲と共にオペラになりました。

【作詞】野口雨情 【台本・作曲】岩河智子 【指揮】樋本英一 【演出】中津邦仁

日時 3月8日(日) 午後2時～(午後1時30分開場)

会場 氏家公民館

入場無料(定員600名)

問い合わせ 028-686-6621(生涯学習課)



コメント

「雨情とひろとお月さま」。これは、雨情の全作品から50編の詩を選び構成・作曲し、雨情と妻「ひろ」の精神的な関係を描き出すオペラです。雨情はどういう思いを抱いていた人物なのでしょう。また、2人の間には何があったのでしょうか。その「真実」は詩人である雨情の作品の中にこそ描かれているはず。またこの上演のためには、作品にふさわしい最高の演奏家に集まって頂きました。市民の皆さんも雨情とひろへの愛情とともに合唱に参加してくださいました。雨情を愛する方たちの思いが結集するオペラをどうぞお見逃しなく!

演出家 中津邦仁氏

マッサンとリタの物語

～日本ウキスキーの父竹鶴政孝と妻リタ～

NHK連続テレビ小説「マッサン」のモデルとなるニッカウキスキー創業者竹鶴政孝と妻リタについての資料展示が栃木県指定文化財の瀧澤家住宅内鐵竹堂で行われます。資料展示にあたっては、北海道ニッカウキスキー余市蒸留所内に保存されている竹鶴政孝に関するものや妻リタの生家に保存されている政孝がリタに直筆のメッセージを記してプレゼントした英語の本も公開される予定です。また、3月28日(土)には、宇都宮市出身のシンガーソングライターせきぐちゆき氏によるコンサート、竹鶴政孝とリタについての記念講演会が実施されます。

日時 3月21日(土)～29日(日)午前10時～午後4時

会場 瀧澤家住宅内鐵竹堂

問い合わせ 028-686-6621(生涯学習課)

※氏家公民館の駐車場をご利用ください。



マッサンとリタ

指揮のもと、ひとつの舞台を創り上げようとしている。